

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5316 近現代の文学4			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	水曜2限				
教室	J201教室				
代表教員	田村 景子				
担当教員	田村 景子				
テーマと到達目標	副題：「戦後」後文学から現在へ 高らかな「もはや戦後ではない」宣言の後、日本の文学と文化はさまざまな方向へハジケた。エンターテインメント文学、ダブル村上の登場、J文学から震災後文学、そしてコロナ禍文学から現在へ。「文学の死」が語られてなお騒々しく誕生し続けた文学作品の豊饒なイメージから、現在と未来を想像／創造しよう。				
概要	戦後文学の後、高度経済成長を背景に爛熟した社会派ミステリー、SFと時代小説、内向の世代、寺山修司、中上健次、村上龍と村上春樹、ルポルタージュ、L文学にJホラー、そして……。映画やアニメーションをも媒介に、1950年代後半から現在までの文学のうねりを概観する。授業は講義形式の予定だが、受講人数によってはグループ討議や発表もとり入れる。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	ガイダンス—戦後文学から災後文学へ、そして……				対面授業
第2回	社会派ミステリー—松本清張『ゼロの焦点』に見る戦後の光と影				対面授業
第3回	大衆文学の中の戦争—山田風太郎『甲賀忍法帖』				対面授業
第4回	過去を媒介に現在を描く—歴史小説と時代小説のはざま				対面授業
第5回	近未来を媒介に現在を描く—星新一『セキストラ』における逆遠近法				対面授業
第6回	ひたすら内向して—古井由吉『杵子』という暗渠				対面授業
第7回	くりかえされる親殺し—寺山修司『田園に死す』				対面授業
第8回	みんな爆破してやる！—中上健次『十九歳の地図』				対面授業
第9回	近代への呪詛—石牟礼道子『苦海浄土』の巫女的ノンフィクション				対面授業
第10回	セックスと暴力—村上龍『限りなく透明に近いブルー』の舞台				対面授業
第11回	浮遊する僕—村上春樹『ノルウェイの森』				対面授業
第12回	L文学の隆盛と孤独—川上弘美『蛇を踏む』の日常／非日常				対面授業
第13回	キレル／ヒキこもる—重松清『エイジ』と滝本竜彦『NHKによろこそ！』				対面授業
第14回	純愛というホラー？—桜庭一樹『私の男』				対面授業
第15回	現在の文学へ—イメージから先が変われ				対面授業
成績評価の基準	授業態度50%、期末試験(教場レポートを予定)50%で評価し、2/3以上の出席がない場合は単位認定を行わない。なお受講態度は、授業への貢献度、授業中の小課題への取り組みなどを総合して判断する。				
履修にあたっての留意事項	「近現代の文学3」との継続履修が望ましい。 扱う作品は、受講者の関心と反応により随時変更する。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	通常授業時はなし。オンライン授業に移行した場合は、資料のダウンロードや印刷を受講者各自が行うこと。		
教科書	なし。授業は配布プリントによって行う。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に指示する。ただし受講者には、Webシラバスに挙げた主要作をはじめ、積極的で広範な読書を期待したい。	参考文献(ISBN)	